



ただ、このSDGsを17の目標や169のターゲットの各論から入ると本質を理解できなくなります。2030年にどんな世界にしたいのか、という観点から理解すべきです。

SDGsの国連総会決議の前文に4つの大切なキーワードがあります。①誰ひとりとして残さない②一層大きな自由・将来とるべき選択肢が多い③ウェルビーイング「よく生きる」④WHO憲章・肉体的・精神的・社会的に健康であること④プラネット維持・環境・気候変動に対応し、将来の世代にわたるニーズに対応する。つまり、「世代を超えて」

「すべての人が」「自分らしく」「よく生きられる」世界がSDGsが目指す世界であります。

次に企業がSDGsに取り組む意義についてご説明いたします。大義としましては、企業は利益追求と同時に社会に善をなすべきです。企業がSDGsを活用して利益を追求することはその存在目的に適うということです。

また、SDGsは世界の変化を先取りするものであり、イノベーションと新市場の源

泉であります。例えば食品ロスを例に取りますと、需要と供給をAIを用いて調節するサプライチェーン・システムの開発、賞味期限を延ばすパッケージング、飲食業界・ホテル業界などで食糧廃棄をなくすシステム構築、廃棄食糧からの発電やリサイクル飼料への波及など市場規模は計り知れない規模となります。

先ほど五島執行役員の話にもありましたように、顧客は環境や人権などSDGsに配慮した製品・サービスを求め、投資家や学生は企業にSDGs経営を求めます。

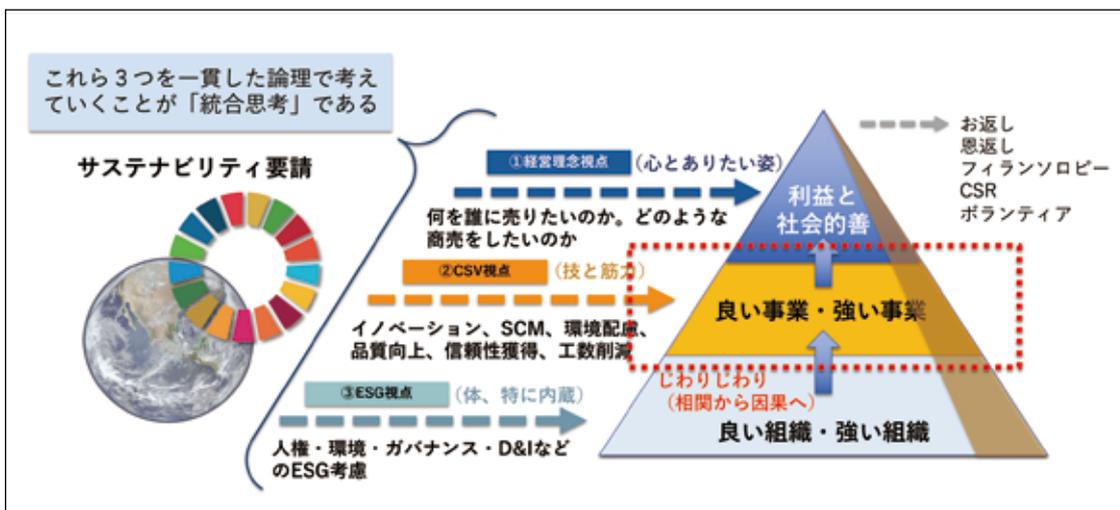
企業がSDGsに取り組むプロセスは、①経営理念とSDGsを関連付ける②ガバナンス機会とリスクを分析し、明確なESG対応を行う③デザイン思考と連関による事業開拓の3つの流れとなります。

これら3つを一貫した論理で考えていくことが「統合思考」であり、自社が成長すれば社会が良くなるということを念頭に置いて経営しなければなりません。これを表したものがSDGsピラミッドです(図1)。

こうしたSDGsに取り組む意義を理解

した上で、17の目標とバリューチェーンの紐付けを行うことが重要です。

■ 図1 SDGsピラミッド

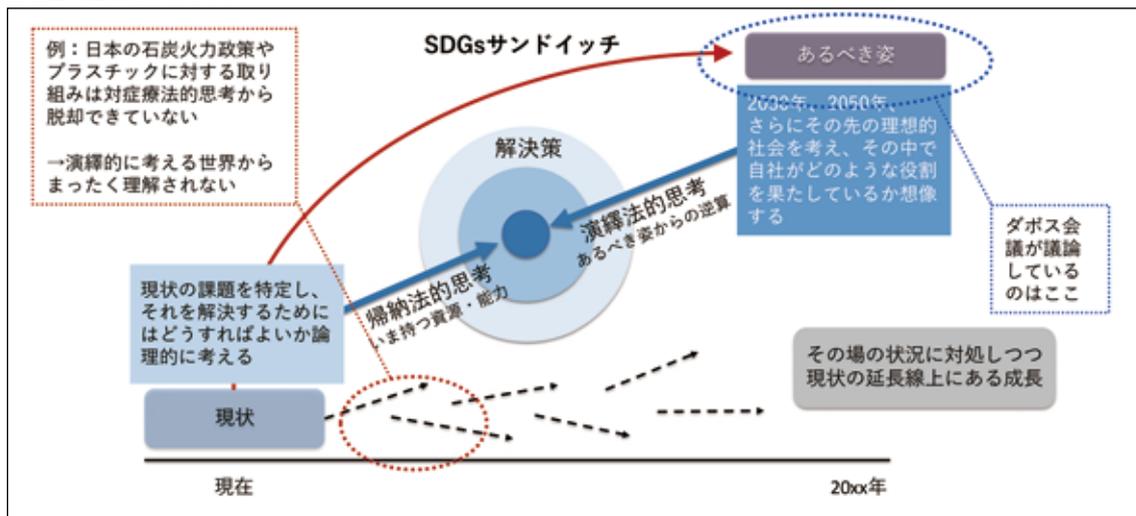


次にSDGsを実現するための2つの新しい思考をご紹介します。「サンドイッチ理論」と「ドミノ理論」であります。

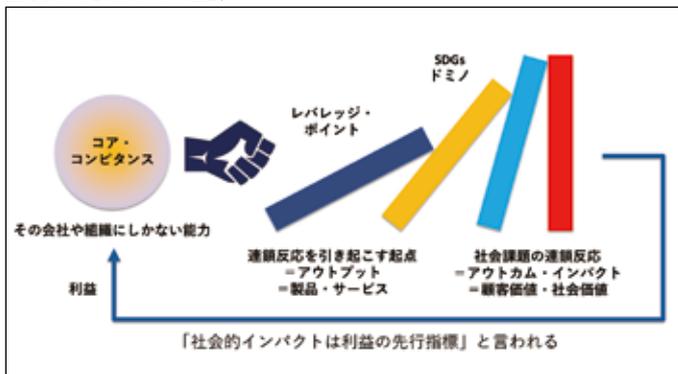
「サンドイッチ理論」とは逆算の思考です。例えば、ケネディ大統領は1961年に1969年までに人類を月に到達させるという宣言をし、逆算して計画を実行し、宣言どおり月着陸を実現しました。このような壮大な目標を立てて実現することをムーンショットと呼びます。SDGsは2030年に実現したいムーンショットにあふれています。ただ、日本の経営者はこの逆算の思考が苦手です。積み上げの思考に慣れていますが、SDGs実践のためには逆転の発想が必要です。現状の課題解決のためにいま持つ資源・能力で対応すると同時に、未来のあるべき姿から逆算して思考して挟み撃ちする「SDGsサンドイッチ」(図2)です。

「ドミノ理論」についてご説明します。SDGsの17の目標のアイコンで批判されるのは「目標をバラバラにした」というものですが、実はすべて関連しているのです。例えば学校給食を実現すると学校に通う子どもが

■ 図2 SDGsサンドイッチ



■ 図3 SDGsドミノ理論



増加し、子どもの健康状態が改善し、幸福度が向上します。また学校を卒業することで就業機会が増え、人生における選択肢が増大し、貧困層の減少につながる—といった連関を生むのです。こうして次々と連関していくのが「SDGsドミノ理論」(図3)です。

最後にポストコロナと企業のSDGsへの取り組みについてお話しします。新型コロナウイルスは健康だけの問題ではなく、人類の持続的な生存にさえ関わる問題です。コロナにより格

差の悪循環という負のSDGsドミノが発生しています。

こうした状況に対処すべき企業のSDGsへの取り組みは5つの分野に類型化することができます。

①しわ寄せを食っている人たちが参画できるようなビジネス

②自律分散型社会、地域の持続的発展を後押しするようなビジネス

③消費行動を大量生産大量消費から持続的な方向に変えるようなビジネス

④新しい雇用の形を模索するようなビジネス

⑤これまで組まなかった人たちが協働するビジネス

これを「ポストコロナ…企業のSDGsのオリンピック」(図4)と呼んでいます。

ポストコロナのSDGsの鍵は、企業が取り組めるこの5つの事業分野に、「SDGs事業ドミノ効果」と金融機関を含めた幅広いパートナーシップとの協業を含めることにあると考えています。

この点、FFGがサステナブルスケールを設立し、地域社会・企業の持続可能性を重視

■ 図4 ポストコロナ:企業のSDGsのオリンピック



## Profile



### 田瀬 和夫 氏

1967年 福岡県福岡市生まれ  
 東京大学工学部原子力工学科卒  
 ニューヨーク大学法学院客員研究員

1992年 外務省入省

2001年 緒方貞子氏の補佐官として「人間の安全保障委員会」事務局勤務

2005年 国際連合事務局人間の安全保障ユニット課長

2010年 パキスタンにて国連広報センター長

2014年 デロイトトーマツコンサルティング執行役員

2017年 SDGパートナーズを設立

2020年 九州SDGs経営推進フォーラムアドバイザーボード

したSX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)を促進することは大変意義があることと思います。

2030年まであと8年しかありません。次世代になくには何をすべきか、ともに努力してまいりましょう。